

科目	国際ビジネス実践セミナー	担当	盧 聡明	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

海外投資や国際戦略がどのような過程を経て作られるか、新たなeビジネスの誕生などについて、実例をベースに講義する。また、企業を取り巻く国際環境の変化と、それに対する経営戦略としてどんなことが考えられるかを、主に近年における日系企業の海外進出、新興国の台頭から論じる。受講者は第一線で働いている日本を代表する企業や金融機関の経営者や管理者、国際とIT業務の専門家の講義により、企業の国際化活動や海外での業務展開内容を通して、国際・電子ビジネスや異文化経営の実践的な内容を学ぶことができ、自分の視野を広げることと共に、実践的にビジネス展開するために必要な応用力の修得も期待される。

【履修注意】

本講義はIT経営コースと同じ内容を受講することになっている。但し、国際ビジネスコースに所属する学生にとって必修科目であり、隔週で奇数回週の実施である。

履修者は事前に講師と講義テーマの背景などを調べておくこと。国際ビジネスコースの担当回の講義の終了時に、レポートシステムによるレポート・課題の提出があるので、パソコンを持参すること(但し、講義中に授業に専念してもらうため、パソコンの無断使用は不可)。講師からの質問や議論に対して、積極的に参加すること。

毎回出席は原則であり、20分以上の遅刻は欠席と見なす。欠席の回数は2回を超えると、D評価(不合格)になることがある。

【評価方法】

①各回のレポートの得点、②出席状況、③授業態度などにより総合的に評価する。第一回講義のオリエンテーション時に評価方法やレポート提出の詳細に関する説明があるので、必ず出席すること。

【試験について】

レポート試験。再試験対象者の条件：基本的に再試験は行わない。

【予習・復習】

各回のテーマは事前に公開しているので、できるだけ関連情報・話題を事前に集めておくこと。予習のための資料がある場合は、事前にActive Academyで配信するか、学修支援課から連絡する。

【教科書】

購入教科書なし。各回の講義内容に関連する資料やレジュメなどが配布する予定。

【参考書】

書籍名:『ケースブック国際経営』 著者:吉原英樹 他 出版社:有斐閣

【その他の注意事項】

全員は指定席になる。外部講師による講義であり、大学の評価に繋がるので、受講態度の不良者が履修の継続を認めない場合がある。

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	受講の基本と評価方法の説明、各回講義の注目点、日程と受講要領の詳細など。以下の各回のテーマと講義内容の概要は前年度の実施事例である。今年度の場合、講師の都合により講義内容の異動と変更がある。
2	モバイルビジネスのこれまでとこれから	講師:株NTTドコモ 東海支社 営業部 アライアンス担当主査 大原 達己 氏 主な内容:移動通信市場、提供サービス、NTTドコモの戦略など
3	高島屋 アジアへの取り組み国際戦略	講師:株高島屋 企画本部アジア開発担当部長 中垣内 毅 氏 主な内容:戦略づくり、アジア進出、AI・ITの活用など
4	Global LIXILへの挑戦	講師:株LIXIL 参事・共同購買推進部長 永田 達也 氏 主な内容:LIXILの海外展開、異文化経営、One LIXILの醸成など
5	日立システムズの紹介とグローバル化・ダイバーシティ対応	講師:株日立システムズ 中部支社 部長代理 早矢仕 善充 氏 主な内容:システム提案、人材教育、企業のグローバル化
6	国際貿易の実務	講師:横山社会保険・企業診断総合事務所代表 横山 明巳 氏 主な内容:業務の流れ、輸出入規制、決済、契約、トラブル対応など
7	オフショアビジネスとそのための人材育成	講師:eエデュケーションプランナー 伊藤 征一 氏(本学の元教員) 主な内容:国際経済連携、オフショアリング、日本語ビジネス人材など
8	中小企業における国際進出のリスクとメリット～知的財産の取り扱いから見た場合～	講師:晃栄産業株代表取締役 佐藤 一彦 氏(地元企業の経営者) 主な内容:企業と製品紹介、海外に関する取り組み(輸出、輸入今後)、粉体業界の海外戦略、会社に於ける知財戦略、ビジネスで大切なことなど